

○ 授業の展開

・ 本時のねらい (活動目標)

水溶液に溶けているものの分け方には、今までに学習した分け方以外に、他の分け方があるのではないかということを確認するために、既習経験をもとに、感覚を使ったり、激しく振ったり、温めたりして未知の水溶液を調べ、なかま分けをする。

	学習活動・内容	時間	学習の流れ	指導上の留意点 ※ 評価	コンピュータ利用のねらい
課題把握	1. ①から⑤までの液を提示し、本時の学習課題をつかむ。 ①から⑤までの液は、水に何か溶けた水溶液が調べ、ラベルをつけてみよう。	(分) 5	始め 未知の水溶液があるという場の設定	○数種類の水溶液をビーカーに取り出していたら、どの水溶液が分からなくなってしまったという場を設定し、児童に興味を持たせて、本時の学習課題をつかませる。	
予想	2. 既習経験をもとに、①～⑤までの液体には、何か溶けた水溶液か話し合う。 ○水のように透過している。 ○臭いがする。 ○何も溶けていない、ただの水ではないか。 ○食塩水ではないか。	7	課題の設定 既習事項の確認 水溶液の分類の仕方 No Yes	○水溶液は、食塩水・炭酸水・塩酸・アンモニア水・水酸化ナトリウム液の5種類のどれかであるという扱いをし、児童に「どれか、何の水溶液が調べたい」という意欲を持たせる。 ○水との違いの中で、その特徴をつかむことを指示する。 ※水溶液の性質を調べる方法を見つけることができたか。(ノート、発表) ○視覚と嗅覚を使って調べさせるが「なめる」ことは禁止させる。 ○レディネステストの結果から、4つのタイプ別グループに対し、コンピュータを活用して、主体的にコースを選択できるようにする。	
観察	3. それぞれの水溶液の特徴を調べる。 ○感覚を使って、色とか臭いとかを調べる方法 ○実験器具を使って調べる方法	28	学習内容の確認 実験手順確認コース 実験方法確認コース 復習コース 教師の助言 解決できたか No Yes	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <Aタイプ> ○コンピュータで学習内容の確認だけで、できるだけ自分たちの考えた方法で実験できるようにし、安全面のチェックだけを行うようにする。 <Bタイプ> ○実験方法確認コースから実験の手順や方法を指示し、安心感を持って学習を進められるようにする。具体的な装置などについては、方法を工夫して調べさせるようにする。 <Cタイプ> ○復習コースから、5学年の既習事項を確認させて、実験方法や手順のヒントを与え、実験させるようにする。 <Dタイプ> ○復習コースから、5学年までの学習内容を復習させ、実験方法や手順を知らせ、興味をもって調べることができるようにする。 </div>	○Aタイプについては、達成感・成就感を高める。 ○Bタイプについては、学習意欲と情報活用能力を高める。
実験			分かったこと・疑問点を話し合う 教師の助言		○Cタイプについては、学習意欲と情報活用能力を高める。 ○Dタイプについては、学習意欲を高める。
まとめ	4. グループごとに分かったことや疑問点を話し合い、次時に調べることをまとめる。	5	まとめることができたか No Yes 次時に調べてみたいことをまとめる 終わり	※協力して、意欲的に実験に取り組む調べようとしているか。(行動観察) ○観察・実験したことがらに今後の学習課題が含まれているので、それぞれの水溶液の違いが分かりやすいように、表にまとめさせる。 ※水溶液の中には、固体の溶けているもの、気体の溶けているものがあることをノートに記録することができたか。(ノート) ○他のグループの発表内容や自分たちのグループで疑問となった点をまとめ、次時への見通しを持たせる。	

図Ⅱ-5 指導過程